

○ 本校の概要

【学校規模】 生徒数 340名 (1年生 3学級:113名、2年生 3学級:103名、3年生 4学級:124名) 教員 20名
【学校の特色】 ユネスコスクールに加盟 今年度で30年目を迎える生徒会主催によるアルム年回収運動 1・2年生による修学旅行見送り隊 生徒が毎日1ページ以上取り組む「自主学習ファイル(教科型)」による家庭学習の推進 道徳授業推進教師を中心とした研究推進委員会による道徳教育の推進

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄	
								評価	人数
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもたちの力を自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々のコミュニケーション能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	2	4: 85%以上	4:	生徒アンケートの設問「学校生活に満足している」において肯定的な回答は、昨年度と比較して1.7ポイント減の78.1%であった。今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため各種の学校行事の実施に制約があったためと考えられる。しかし、その中でも工夫して諸活動を実施することができた。今後は、さらに生徒会活動を活性化させ制約がある中でも、生徒自らが考え、工夫を凝らし、主体的に取り組んでいくよう指導していく。	A	2
		理論的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのみのづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	3: 60%以上				
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	3	3: 40%以上				
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	2: 40%以上				
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3	4: 85%以上	4:	生徒アンケート設問「学習への取組が積極的になった」において肯定的な回答は昨年度より1.1ポイント減の81.8%となった。授業では基礎・基本の定着と個に応じた指導、生徒の言語活動を積極的に取り入れることにより、生徒が興味・関心を高め主体的に取り組めるよう指導している。また、ICT機器を積極的に活用しており、今後も一人一台タブレットのさらなる有効活用を図る。教員の指導力向上のため、次年度も東京都大田区の研修会に教員が参加したり、校内での研修を行ったりすることを継続実施し授業力の向上を図る。家庭学習の習慣が身に付き、自主的に学習することができるよう「自主学習ファイル」の取組を全校体制で継続して行っていく。	A	2
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	2	3: 60%以上				
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	4	2: 40%以上				
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3	1: 40%未満				
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望な心をばぐみまします。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	4: 90%以上	4:	「学校の決まりを守って生活している」において肯定的な回答は、昨年度より0.9ポイント増加し96.7%となった。社会のルールを守ろうとする気持ちや正義感が育っていることがわかる。また、コロナ禍での学校生活では様々な制約があったが、その中で学校行事・学年行事に工夫を凝らし、生徒の活躍の場を作ってきた。「学校行事・学年行事に意欲的に取り組んでいる」については84.7%が肯定的な回答をしており、自己肯定感や自己決定力を高めることにつながっていることと考えることができる。今後も生徒が主体的に取り組むことができるような場面を多く工夫して作っていく。また、生徒が豊かな心を育むことについては、道徳の授業がもつ役割は大きい。次年度もさらに研修を深め道徳指導の充実を図っていく。	A	3
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	3: 75%以上				
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	2: 60%以上				
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	1: 60%未満				
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	2	4: 85%以上	4:	「体育の授業や部活動など継続的な運動を通して4月の頃より体力が向上した」と回答した生徒は、昨年度より2.9ポイント増加し、76.8%となった。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため運動の機会が激減しているものの、今年度は生徒たちはスポーツに親しむことや運動習慣の大切さについてしっかりと受け止めている。今年度は規模縮小・保護者へ非公開でも、身体を動かしている生徒が多く見受けられる。今後も引き続き運動する機会を増やし、身体活動量を増加させ、体力を向上させていく。	A	2
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	2	3: 60%以上				
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	2: 40%以上				
		体育の授業等運動の機会を積極的に取り組むよう指導する。また、運動部活動の取り組み内容を充実させ、体力向上に取り組む。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	1: 40%未満				
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	2	4: 90%以上	4:	生徒アンケートの設問「先生は、わかりやすい授業を行っている」に対しては、肯定的な回答の各教科の平均が昨年度より4.7ポイント増加し91.6%となった。ICTの環境が整い、生徒一人一台タブレットの使用が定着してきたことも要因の一つである。年間を通じてしっかりと注ぎ込まれた校内研修もその成果が現れてきたと考えられる。感染症拡大防止のため、授業公開ができなかったことが非常に残念であった。今後についてはICTのより効果的な使い方を探っていくとともに、校外での研修成果を校内で共有し、活用を図る。	A	3
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が動員・支援を行う校内研修等を実施しLOJITを充実させる。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	3: 75%以上				
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	2: 60%以上				
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	1: 60%未満				
プラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に関わった教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に関わった教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	4: 90%以上	4:	保護者アンケートの結果、「学校が発行する印刷物(お知らせ・便り)等はわかりやすい」(90.2%、昨年比3.2ポイント減)。「子どもは学校生活に満足している」(83.3%、同4.2ポイント減)。「子どもは落ち着いた授業に取り組んでいる」(90.6%、同3.1ポイント増)になっている。保護者の学校に対する期待が大きいことを受け止めてこれからは充実した教育活動を行っていく。また、コロナ禍で通常と同様にはいかなかったものの、学校支援地域本部の協力のもと「いのちの講演会」「職業人講話」等実施することができた。これからは地域と連携を図り、教育活動を実践していく。	A	1
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の発達の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:「おおむね」情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	2	3: 75%以上				
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:学期1回以上行った。 3:年1回以上行った。 2:年2回以上実施した。 1:実施しなかった。	3	2: 60%以上				
		生徒会主催アルム年回収運動を感染防止対策に配慮しながら実施する。	4:年6回以上実施した。 3:年4回以上実施した。 2:年2回以上実施した。 1:年2回未満であった。	2	1: 60%未満				

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。
 ○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。